

対面＋オンライン→「ハイブリッドな公開授業研究会」は令和時代のスタンダード



遠隔教員研修

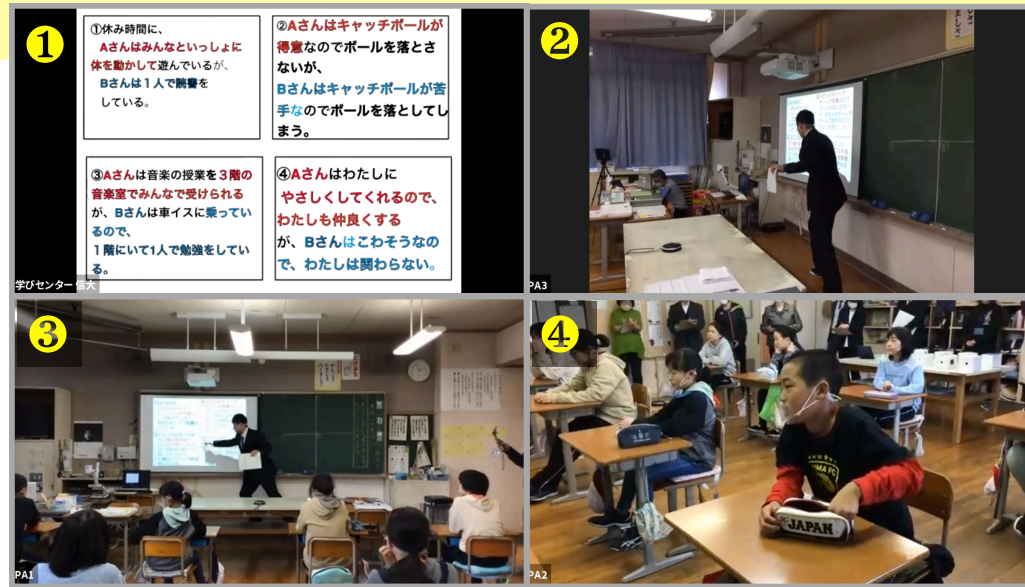
遠隔教育システムは、児童生徒の学びだけでなく教員の学びにも恩恵をもたらしています。教員研修を遠隔教育システムを活用して実施すれば、研修会場に赴くことなく研修に参加することができます。対面の研修は大変重要です。

公開研究授業に参加するとき、今までは必ず児童生徒の姿がありました。先生方は子どもたちの生き生きした姿を間近に捉えその変容に多くのことを学んできたのです。

しかし、例えば研修の目的が「授業の方法」研修や、「注目する児童の変容」の研究である場合には、オンラインで専門家の解説を聞きながら参観することにより、今までにできなかった観点での研修が可能になります。

目的にあわせて研修形態を選ぶことができます。それがハイブリッドなのです。

しかし、オンラインと併用することによって、今までにできなかった研修を行うことができるようになりました。研修の意図や目的を明確にすることによって、より有効な授業参観や授業研究会を開催することができます。



- ①教室の電子黒板にうつされている画面です。
- ②教室前方の固定カメラで教師の指導がうつされます。
- ③教室後方から固定カメラで授業の全景をうつします。授業参観の立位置です。
- ④移動カメラで児童の活動を伝えま。抽出生場合には表情の変化等を捉えます。普段の授業参観では見られません。



遠隔授業についてのガイドブックは、文部科学省のHPからダウンロードすることができます。第2版と第3版には伊那市の遠隔教育の実践が紹介されています。伊那市では遠隔教育に2014年から取り組んでいます。

昨年度は信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センターと協力して研究を行いました。

左下の「遠隔教育分類」の「D家庭学習を支援する遠隔・オンライン学習」ではコロナ禍でのオンライン学習について、「E遠隔教員研修」では伊那市ICTConferenceの成果を報告しています。

今回の実践は、「第3版」p138に紹介されています。上伊那地区の小中高等学校、特別支援学校の人権担当者に向けて行われた授業参観と授業研究会のものです。

昨年度の伊那西小学校での上伊那ブロック学校人権教育連絡協議会（授業者：松村源貴先生）の実践をもとに推進センターで編集させていただきました。

遠隔教育を実施する目的や接続する相手を意識してみましょう

A	多様な人々とのつながりを実現する遠隔教育 他の学校とつないで合同で授業を行うことで、協働して学習に取り組み、多様な意見や考えに触れたりする機会を充実を図ります。
B	教科等の学びを深める遠隔教育 遠方にいる講師が参加して授業を支援することで、自校だけでは実施しにくい専門性の高い教育を行います。
C	個々の児童生徒の状況に応じた遠隔教育 特別な配慮を必要とする児童生徒や、特別な才能をもつ児童生徒に対して、遠方にいる教員等が支援することで、それぞれの状況に合わせたきめ細かい支援を行います。また、一人一人の児童生徒がそれぞれ教員等とつながることで、それぞれの興味関心に寄り添った指導を行います。
D	家庭学習を支援する遠隔・オンライン学習 感染症や災害等の非常時において、家庭と学校をつないで学習支援を行うことで、児童生徒が学習する機会を確保します。
E	遠隔教員研修 教員研修をオンラインで実施することで、教員の負担軽減や業務効率化を行います。